

課題の分類	近畿中国	総合農業	生産環境	虫害	13	1
	近畿中国	営農	情報研究		20-11	
研究課題名：11．情報システムに関する研究 (1) 天敵普及のための情報蓄積・支援システムの整備(天敵カルテ) 予算区分：府単 担当：大阪農技セ環境部病虫害 担当者：田中 寛・柴尾 学 研究期間： 協力・分担関係：天敵カルテ企画幹事会 継 平成11年(年～ 年) 中国農試，農研センター						

1．目的

天敵は化学農薬と比較して、また作目・栽培環境が多様な日本では北ヨ-ロッパと比較して、さまざまな要因による防除効果のふれが大きいため、天敵の使用方法が難しく、普及が遅れている。したがって、日本における天敵普及のためには、ノウハウ整備として利用事例を蓄積してデータベース化するとともに、そのデータベースを活用した利用者への支援体制を構築することが最も効果的であると考えられる。そこで、天敵利用のための情報蓄積・支援システムを整備し、その利用・普及を図る。

2．方法および結果の概要

(1) 組織：2月に12名で構成されるワーキンググループを発足し、システムを天敵IPMデータベース(略称天敵加行)、ワーキンググループを天敵加行企画幹事会(以下幹事会)とネーミングし、企画調整等の実務は原則として電子メールで行うことにした。その後メンバーを拡充し、12月現在の幹事会構成メンバーは21名(都道府県試験場・防除所10名、農水省4名、大学4名、日植防1名、企業2名)である。なお、幹事会は12月現在、非営利組織(予算上の制約を受けない非公的組織)である。*IPM: Integrated Pest Management。

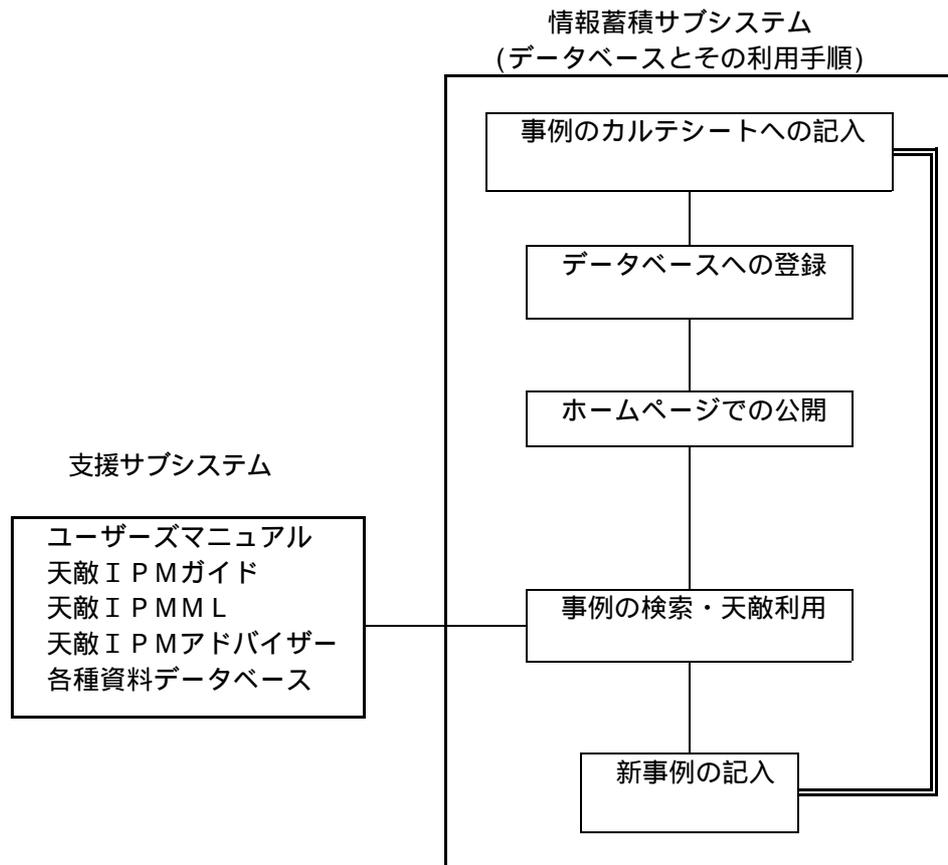
(2) 基本方針：データベースは「利用」がキーワードであり、利用されないデータベースは無意味である。このため、システムの基本をLinuxをベースとしたオープンソース、かつ、さらに先鋭的なオープンソースとし、一般参入による随時改良型を志向している。なお、オープンソースとした場合は著作権が問題となるが、インターネット上の著作権自体が現在著作権法専門家による議論中であり、今後の展開が予想しきれないため、現時点では著作権がデータ提供者にあることを明示した上で、システムデータの利用には原則として制約を設けない方針である。また、成功事例より失敗事例を重視し、失敗事例を利用方法の改善、研究へのフィードバックに結びつけることを目指している。

(3) システム概要(第1図)：情報蓄積データベース(右) --- データベースとその利用手順。支援システム(左) --- ユーザーマニュアル、天敵IPMガイド(データベース利用のための自習書)、天敵IPMメーリングリスト(以下天敵IPMML; 情報共有・交換のためのメーリングリスト)、天敵IPMアドバイザー(現地圃場への天敵導入のための助言者グループ)、各種資料。なお、一般公開時点においては、天敵IPMアドバイザーは天敵IPMML(5月に専門家約70名によりテスト的にスタートさせた)で機能を代替させ、徐々に整備を図る。なお、現時点では運営のための予算はなく、農水省サーバーを利用し、また維持管理の労力コストを可能なかぎり小さくするよう工夫している。また、オープンソースであることから、公開時の完璧なパッケージは不要であり、デザインや天敵IPMガイドブックも含め、一般の参入・改良提案を広く受け入れて随時改訂を行う。

(4) 対象：天敵普及の中核をなす改良普及員、病虫害防除所員、農協営農指導員、天敵企業・販売店スタッフ、および意欲ある農家を主対象と位置づけ、彼らが最も利用しやすいシステムの構築を目指している。副対象としては国公立試験場・大学等研究者、都道府県・農水省・環境庁等行政担当者、日植防・全農・農薬工業会等関係団体スタッフ、NPO・消費者団体・一般市民等を想定している。

(5) 一般公開：12月現在、幹事会においてシステム構築・データ入力・テストを行っており、システム完成時に天敵IPMMLにおいて1か月間テストを行った後、ただちにテストの形で一般公開するとともにNPO等によりアピールする予定である。システムの運営は当面は幹事会が行うが、主対象によるデータ入力・改善提案が多ければ本システムが受け入れられたとみなし、仮称天敵加行運営委員会を設置して運営の整備を図る。

(6) 応用：天敵加行のノウハウは同様の情報蓄積・支援システムが有用なICM(総合的作物管理)、薬害情報等にも応用が可能である(応用を期待している)。なお、天敵加行が不成功に終わった場合(実際の利用が少なかった場合)でも、得られたノウハウは今後、事例情報の共有化のあり方、データベースシステムのあり方に多大な影響を及ぼすと予想される。



第1図 . 天敵カルテ概要

3 . 今後の問題点と次年度以降の計画

4 . 結果の発表・活用等

- (1) 田中寛(1999)第4回農林害虫防除研究会報告
- (2) 田中寛(1999)農耕と園芸 8月号
- (3) 田中寛(1999)日植防ソシウム「生物農薬:その現状と利用」要旨
- (4) 渡邊朋也ら(1999)第9回天敵利用研究会要旨
- (5) 木浦卓治ら(1999)第9回天敵利用研究会要旨
- (6) 矢野栄二(2000)トクノ農薬がトク 94(印刷中)
- (7) 大野和朗(2000)今月の農業 1月号(印刷中)